

本年度の 重点目標			防災対策・防災教育の充実				
項目		担当	重点目標	具体的方策と留意事項(実施時期、回数、連携相手等)			
目指す子ども像に向けた教育活動	主体的に学び表現する子の育成	山嶺教室	・多様化する生徒の実態に応じた、作業内容を見直す。	・巡回相談や自立支援協議会等を通して、本校入学希望生徒の実態把握をする。 ・どのような作業が生徒の実態に合っているのか、目標を達成できるのかを検討する。			
		潮風教室	・「指導内容作成シート(流れ図)」の作成と活用を通して、生徒の実態に合わせた自立活動の指導の充実を図る。	・「指導内容作成シート」作成に関する職員研修を1学期に1回行う。 自立活動の時間の指導担当者と担任で「指導内容作成シート」を事例として作成する。 ・外部講師を招き、職員研修を年1回行う。 ・指導内容や方法を、学期毎に全教員で改善する。			
		教 務 部	・各教科や各教科等を合わせた指導において、学習指導要領の各教科の指導目標の達成に迫る授業を行うために、各教科で育成する資質・能力を明確にする。	・教科の視点を入れた年間指導計画、個別の指導計画、指導案の様式を整備し、提示する。 ・本校版目標・内容一覧を用いて学習指導要領の教科を明確にした年間指導計画や個別の指導計画の立案と授業実践、及び評価を行う。 ・教科の視点を明確にした評価の仕方の文例を作成し、提示する。			
	友達を尊重し助け合う子	・人権教育	指 導 部	・とよまつ人権ウィークを中心に各学級で実施した人権に関する授業の内容を共有し人権教育の充実を図る。	・人権週間に合わせて、「とよまつ人権ウィーク」を実施する。 ・年間指導計画作成時期に教育課程に合わせて、人権教育の視点を入れるように周知する。 ・授業実践等の実績を蓄積し、幅広い実態やニーズに対応できるようにする。		
	健康を意図安全な生活	・防災教育 ・安全教育	保 健 部	・学校安全、学校保健における緊急時の対応を徹底し、学校事故ゼロを目指す。 ・災害時における対応を理解し、本校の課題を見出して整備していく。 ・児童生徒が健康を意識できる保健指導をする。	・全教職員が迅速に対応できるよう、各学期に事故予防訓練をする。 ・地震防災規定をもとに医療的ケア児童生徒の避難・待機行動に必要な事項を意見交換したり、まとめたりして教職員に周知する。 ・各部、分教室の児童生徒が健康や安全、食育について興味関心をもてるように学習する機会を設ける。		
			指 導 部	・現在の避難訓練の在り方を実際の発災時の対応に近いものに見直す。	・防災対策委員会を月1回開催し、本校の実情や児童生徒の実態に合った訓練を計画する。		
			小 学 部	・避難訓練をととして、非常時に児童の安全を確保できる体制を整える。	・指導部や保健部と連携する。 ・必要持ち出し物品(特に医療的ケア児童)を日頃から準備し、訓練時に持ち出す。 ・中棟・北棟の課題を出し、職員の協力体制を整える。		
	目指す教師像に向けた取組	高い専門性をもつ教師	・関係機関との連携 ・ICT活用 ・校内支援 ・地域支援	進路指導部	・進路相談の内容を踏まえ関係機関と連携し、進路開拓の計画時期を早め充実を図る。	・企業や福祉事業所との連携を密にして、生徒の適性や保護者の希望に沿った実習先、進路先を開拓する。 ・家庭環境や障害に応じて必要と判断する生徒については関係機関と相談して個別支援会議を計画する。	
				研 修 部	・専門性の向上を目指した校内研修の充実を図る。	・ニーズに合った校内研修の計画、実施をする。 ・次年度に向けて校内研究の在り方や実施方法等を検討する。	
				情報図書部	・教師が校内のICT機器の使い方を理解し、授業で活用ができるよう、ICT活用の推進に取り組む。 ・教師が授業等で図書を活用しやすいよう、図書室の絵本コーナーの配架方法を工夫する。	・研修部と連携し、視線入力装置の研修や研修部主催の教材教具展でICT機器コーナーの設置を行い、ICT機器の使い方や活用方法を教員に伝える。 ・校内でICT機器を用いた実践を情報図書だよりに載せ、保護者に発信する。 ・絵本コーナーの一部を、季節や行事、興味関心の高い分野等のジャンル別に分けて配架する。	
				自立活動部	・自立活動相談の定着、充実を図る。	・自立活動相談の申し込みが増えるよう、自立活動だよりで相談件数や相談事例を紹介したり、申し込み手順を改善したりする。 ・自立活動アドバイザーによる校内支援体制を整える。(巡回、助言、相談等)	
				教育支援部	・校内の職員からの相談を受け、各部のコーディネーターが中心となって対応する。 ・肢体不自由特別支援学校としての専門性を生かして、地域の学校を積極的に支援する。	・校内の職員からの相談を分掌内で共有し、外部機関からの情報を関係職員に周知したり、相談活動に生かしたりする。 ・外部機関や校内の職員と連携して、地域の学校の職員を対象とした肢体不自由教育勉強会等の研修会を開催する。	
		信頼される教師	・学習環境の整備 ・不祥事防止	高 等 部	・人権に配慮し、生徒のよいところに着目した教育活動を行って、生徒の得意なことを伸ばす。	・できたことを褒めたり、できそうなことを応援したりする姿勢で教育活動を行う。 ・生徒のよいところやできるようになったこと、がんばっていることなどの情報を職員間でいっそう共有する。 ・生徒の呼称をはじめ、職員が人権意識を高くもつ。	
				中 学 部	・生徒が安心・安全に学校生活が送れるための環境を整備する。	・生徒の健康安全に関する情報やヒヤリハットに関する情報を活用した対策と改善に取り組む。 ・緊急時の対応について情報共有し、初動訓練等の研修を通じた職員間の連携を深め強化する。 ・生徒の目線となって安全に配慮された教室環境の整備を行う。	
				総 務 部	・確かな学習支援が提供できるよう環境を整備する。	・備品、消耗品の適切な配布や補充に努め、点検や交換を進める。また、ニーズに合った購入計画を立てる。	
				管 理 職	・職員の教育公務員として自覚を高め、不祥事の防止に取り組む。 ・多忙化解消に向け、働きやすい環境を整える。	・不祥事防止チェックシートを活用し、毎月職員会議の後に自己点検を行う。 ・不祥事の事例について話し合う機会を設定する。 ・各分掌の業務内容の見直しを図る。	
学校関係者評価を実施する主な評価項目				(1) 防災対策の見直しと強化(指導部) (2) 想定される災害に応じた防災教育と準備(小学部)			